

ケアコンテスト 2026 動画/エピソード部門 学生チーム 課題事例

【課題事例】 山下さんが笑顔で生活できるように支援をしてみましょう。

1. 基本情報	山下さん 88歳 女性 要介護2 現在、有料老人ホームに入所中 入所期間：2週間 脳梗塞の後遺症で軽度の左麻痺がある。 性格は穏やかである。他の人との交流を好まれる。 日中は、居室で過ごす時間が長い。
2. 生活歴・ 家族構成	山下さんは商店街にある八百屋の長女として生まれ、高校卒業後から「看板娘」として家業の仕入れや接客に奔走した。23歳で結婚した後は、25歳から夫と二人三脚で定食屋を創業した。一男一女の母として育児に励みながら、40年以上にわたり、地域に愛される料理を提供し続けた。厨房では常にラジオを流し、時にはリクエスト曲を投稿するような、明るい一面も持ち合わせている。また、持ち前の器用さと色彩感覚を活かし、七夕やクリスマスといった商店街の装飾を一手に引き受けてきた。夫が他界した後も、息子に店を譲りながら、仲間たちと街に花を植えるボランティア活動を行っていた。しかし2年前、自宅で家族と過ごす中で脳梗塞を発症した。入院を経て、退院後は車いすを使いながら息子夫婦や二人の孫と生活を共にしてきた。慣れ親しんだ自宅での暮らしであったが、最終的には本人の意思を尊重する形で、2週間前から自宅近くの有料老人ホームでの新しい生活を始めている。
3. 生活の様子	【移動】 車いすを使用。室内はゆっくりと自走。屋外は介助による移動をしている。 【食事】 ホールで他の利用者とともに食べている。食事は「おいしい」と言って食べるが、定食屋をしていた時のことを思い出し涙ぐむことがある。 【排泄】 居室のトイレを使用。立位とズボンの上げ下げは一部介助を行う。 【入浴】 週2回、チェアー浴で入浴。いつも清潔でいたいと話す。 【着脱】 一部の介助により着脱できる。「仕事のときは動きやすい服装がいい」、「清潔できれいでいたい」、「本当は明るい服を着たい」と話すことがある。 【居室】 個室を使用している。棚やベッド周りは整理整頓されている。夫や家族、店の写真が飾ってあり、時折懐かしそうに眺めている。 【対人関係】 現在は自分から他の人に話しかけることは少ないが、他者と話している時には笑顔が多い。息子夫婦や孫の面会時には「店が忙しいからそんなに来なくてもいい」と言いながらも、とても嬉しそうにしている。 【本人の思い】 「自分の手仕事で誰かを笑顔にすることが楽しみだった」「商店街は自分たちが支えてきた」という思いと誇りがある。また、入所後も「自分ができことで周囲に貢献したい」という願いを抱いている。 【家族の思い】 店の休みの時しか面会に来られないので申し訳ない。店にいた時の母のように笑顔で人と交流して笑顔で生活してほしい。